

1 学校教育目標	
(1) 教育目標	生徒一人ひとりの能力と人間性・社会性を高め、より良い社会の実現に向けて貢献できる人材を育成する。
(2) めざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの状況に応じた的確な支援をする学校</li> <li>・生徒や教職員が生き生きと活動する活力ある学校</li> <li>・地域の信頼に応え、地域に愛される、開かれた学校</li> </ul>
(3) 教育方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性の育成と個性の伸長</li> <li>・基礎学力の充実と自主的な学習習慣の育成</li> <li>・自主的・主体的な実践力とコミュニケーション能力の育成</li> <li>・体験を踏まえた社会観・自然観の育成と夢の実現の支援</li> </ul>

2 令和3年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策	
学習指導	生徒の主体的な学習態度の育成と授業改善の実施
生徒指導	生徒の主体的な活動による豊かな心、思いやりの心、協調性の育成
進路指導	主体的な進路実現に向けた面接指導や進路説明会等の充実
健康安全	健康な生活習慣を基盤とし、個々の状態に応じた健康安全管理能力の育成
人権教育	学び合う中で、互いを認め尊重する心といじめをゆるさない態度の育成
図書教育	主体的に読書に親しむ姿勢の育成
特別活動	自主的・主体的な実践力とコミュニケーション能力の育成
情報発信	適時・的確な情報発信の充実
業務改善	令和4年度を視野に入れた業務の整理・統合・改廃による校務縮減の継続

3 自己評価					
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
学習指導	生徒の主体的な学習態度の育成と授業改善の実施	授業のはじめに目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう共通理解を図る	4. 75%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 3. 50%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 2. 25%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 1. 目標提示と振り返り活動が出来なかった。	4	■継続的に取り組んだ結果、教員間では具体的方策が徹底されてきている。これが学校アンケートの学習指導項目高評価の一因にもなっている。

4 学校関係者評価	
学校関係者からの意見・要望等	評価
○学校アンケートにおける生徒・保護者からの学習指導に対する高い評価は、教職員の日頃からの指導の結果であると思われる。 ○少人数で生徒一人ひとりを大切にする濃い指導をされており有難い。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
生徒指導	生徒の主體的な活動による豊かな心、思いやりの心、協調性の育成	学校行事・特別活動・地域活動への積極的参加により豊かな心、協調性、コミュニケーション能力の育成を図る。	4. 生徒全員が意欲的に取り組んだ。 3. 8割程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 2. 半数程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 1. ほとんどの生徒が意欲的に取り組めなかった。	3	■学校行事・地域活動において、どの生徒も意欲的に参加し、協調性やコミュニケーション能力の育成につなげることができた。
進路指導	主體的な進路実現に向けた面接指導や進路説明会等の充実	面接指導をより充実させ、キャリア教育と進路説明会の講演との連携を図る。	4. 進路説明会を中心に、全員の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 3. 進路説明会を中心に、約8割の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 2. 進路説明会を中心に、5割の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 1. 進路説明会が十分でなく、1割程度の生徒しか、進路先を明確にできなかった。	4	■3年生全員の進路先の決定につながったのは、生徒の確固たる目標があったことと、担任をはじめとする他の教職員の熱心な指導及び外部の講師や就職指導員の方々の御尽力が大きかったと感じる。
健康安全	健康な生活習慣を基盤とし、個々の状態に応じた健康安全管理能力の育成	心身ともに健康な生活について考え、気づきをもとに実践していこうとする態度を身につけさせる。	4. 生活習慣について振り返らせ、実践できることに週に3～4回は取り組ませた。 3. 生活習慣について振り返らせ、実践できることに週に1～2回程度取り組ませた。 2. 生活習慣について振り返らせたが、実践に取り組ませることができなかった。 1. 生活習慣について振り返らせることができなかった。	3	■学校歯科医による歯みがき指導で歯周病予防の意識づけが出来た。また、体調不良が起こった時に生活を振り返り原因を探り、保護者との連携により生活改善への意識が高められた。将来健康に過ごすため、カイロプラクターの講義により日頃の生活姿勢の大切さを学べた。
人権教育	学び合う中で、互いを認め尊重する心といじめをゆるさない態度の育成	SHR・授業・学校行事等で生徒が互いに学び合い、認め合う場を設定し、いじめのない人間関係づくりに努める。	4. 互いに認め合う態度が顕著で、いじめ防止等にも十分な効果があった。 3. 互いに認め合う態度がみられ、いじめ防止等にも効果があった。 2. 互いに認め合う場を設定したが、互いを認め合うところまでいかなかった。 1. 互いを認め合う場を設定できなかった。	3	■学校生活全般を通して、人との関わりの中で学び、自分自身を振り返るなどして、人権尊重の態度を育みつつある。 ■生活アンケートの分析結果などを全教員で共有することで生徒理解を図り、よりよい対応等を検討した。

学校関係者からの意見・要望等	評価
○コロナ禍の様々な行事や地域活動等において、知恵を出し合って、生徒のために今できることを最大限やろうとする取組は素晴らしい。 ○地域参加への心を育てるためにも、地域への関心をもっと持たせてほしい。	A
○日常における生活面の指導の成果が3年生の進路決定に大きく関わっていると思う。 ○進路決定が全てではなく、入ってからの生き方が大切である。置かれた環境の中で最大限努力するよう指導してほしい。 ○進路希望先の情報についてもっと詳しい情報を入手し、伝えてもらえるとうよい。	A
○健康面は社会に出れば自己管理が求められる。高校時代までに身に付けてほしいことをしっかり指導していただきたい。 ○学校保健安全委員会での3年生参加の取組は良い試みである。 ○体育の授業やマラソン大会・スポーツフェスティバル等を通じて、生徒はしっかり運動しているのでよい。	B
○いじめが起きていないことは仲間としての人間関係ができつつあることであり、生徒の成長の跡が見られる。 ○社会に出たときの仲間づくりが大切。コロナ感染に対する偏見を生まないような心の痛みが分かる教育が必要である。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
図書教育	主体的に読書に親しむ姿勢の育成	定期的に図書を購入する。また新着図書の情報を発信して、学校図書館の利用を促進する。	4. 9割以上の生徒が図書館を利用した。 3. 7割程度の生徒が図書館を利用した。 2. 半数程度の生徒が図書館を利用した。 1. 図書館を利用した生徒が3割未満だった。	3	■長期休業前に貸出の呼びかけなどをして、普段利用しない生徒にも読書する機会を持つよう促した。 ■利用頻度が高い生徒にも十分対応できるよう、図書購入をこまめに行い、図書館の魅力を高める必要がある。
特別活動	自主的・主体的な実践力とコミュニケーション能力の育成	生徒が企画運営に自主的・主体的・積極的に参加できる学校行事や部活動を実施する。	4. 生徒全員が意欲的に取り組んだ。 3. 8割程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 2. 半数程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 1. ほとんどの生徒が意欲的に取り組めなかった。	3	■諸行事において、生徒一人ひとりが自主的、主体的に参加できた。特にクラスマッチにおいては企画から進行まで、生徒自ら役割を分担して意欲的に実施できた。
情報発信	適時・的確な情報発信の充実	学校HPや鹿野分校連絡メール等による学校行事や学校生活等のより幅広い情報発信を行う。	4. 2週間に1度の頻度でHPを更新し、学校の様子を積極的に発信した。 3. 3週間に1度の頻度でHPを更新し、学校の様子を発信した。 2. 1ヶ月に1度の頻度でHPを更新した。 1. HPの更新があまり行えなかった。	4	■コロナ禍様々な制限下で実施された学校行事や授業等生徒の活動の様子をできる限る伝えることができるようホームページ等を利用した積極的な情報発信に努めた。
業務改善	令和4年度を視野に入れた業務の整理・統合・改廃による校務縮減の継続	募集停止による教職員の縮減が進む中で適切な教育活動を保証できるよう、教育課程・学校組織・校務・学校行事・部活動の見直し等を進め、学校運営の Slim 化と教職員の協働体制を促進する。	4. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が90%以上いた。 3. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が70%以上いた。 2. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が50%~70%いた。 1. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が50%以下であった。	3	■アンケートにおいて満足度を昨年度と比較し、勤務環境、勤務実態、学校運営(100→100)と職場環境は良い状況である。 ■時間外在校等時間について、4月から12月までの過去3年間平均と平均時間を比較すると、15.7時間から15.3時間とほぼ同程度に抑えている。2つの分掌間での業務の調整や部活動削減、総合的探究の時間の領域削減等の要因が考えられる。

学校関係者からの意見・要望等	評価
○大人になれば意識しないとなかなか読書できない。高校時代までに読書の大切さを伝えてほしい。 ○本を借りるだけで本当に読んでいるのか分からない。例えば2ヶ月に1回の割合で簡単な感想を書かせていかか。	B
○キッズライブラリーのウインドウアートや諸行事において、生徒が自主的・主体的にやっていることは高く評価している。 ○コロナ禍で、しかも少人数という整っていない環境の中で、教職員・生徒が知恵を出し合い、社会に出た時に必要な力を身に付けられるように様々な活動の在り方を考えてほしい。	A
○学校から地域への情報を伝えるために、事細かく出来事を発信していて良い。 ○閉校に向けて同窓生等への情報発信があればよい。	A
○教職員全体で協力し合い、業務を改善していこうとする雰囲気がある。 ○生徒のための活動にあたって、遠方への地域探求による引率等、教職員の負担が増えないようにやっていただきたい。	B

## 5 学校評価総括（取組の成果と課題）

学習指導	I C T機器を活用することや目標提示・振り返り活動を効果的に行うことによって授業改善を進め、生徒の自学自習等主体的な学習態度の育成や意欲の向上に成果が見られた。最終年度においては、一層の基礎学力の底上げに取り組む必要がある。
生徒指導	学校行事や地域行事において、協調性が徐々に養われ、コミュニケーションを図ろうとする態度も芽生えてきている。今後はより確かな自信をつけさせ、積極的に他と関われる取り組みを図っていきたい。
進路指導	日常における生活面の指導の成果が進路実現につながっており、今後も継続していきたい。
健康安全	今年度は、歯周疾患予防の取組をし成果もあった。また、口腔衛生の関心も高まり、感染予防にも効果を得た。これからの課題は、心身の健康状態を維持するため、生活習慣の見直しやコミュニケーション力を高めることが必要である。
人権教育	今年度の人権教育講演会は、学年ごとの課題に応じた内容を実施することで成果をあげることができた。互いを認めあう人権尊重の態度のより一層の向上とともに、自らの人権を守る方法を学び、社会に出る準備をさせる必要がある。
図書教育	生徒や教職員からの図書の購入希望を踏まえて、幅広い選書を行うことができた。今後は、一人ひとりが幅広いジャンルの本に触れ、社会への興味・関心を持つことで、自らの視野を広げ、考えを深めることができる機会を設ける必要がある。
特別活動	自ら企画し、行事を進めていこうという積極的な態度と協調性が芽生えてきた。今後は自分たちのできること、できないことの見極めの能力を養う必要がある。
情報発信	ホームページ等を通じ、学校行事をはじめ生徒の日常の活動を幅広く情報発信を行っている。最終年度は、卒業生等に対して閉校に向けた情報発信を行っていく必要がある。
業務改善	生徒募集の停止により教職員及び生徒が減少し、コロナの影響もある中で、分掌を越えた形態による学校運営及び教職員の相互協力により、工夫しながら学校行事や様々な教育活動を制約を受けながらも実りあるものとして実施できた。来年度閉校を迎えるにあたって、学習保障を第一に、記念事業も含めた教育活動を教職員にとって無理なく実施できるよう検討していく必要がある。

## 6 次年度への改善策

学習指導	最終年度に対して、鹿野分校が実践してきた生徒一人ひとりに応じた学習指導の集大成を実施していく。
生徒指導	人間関係づくりを大切にしながら、生徒一人ひとりに応じた生徒指導を行っていく。
進路指導	高校卒業後の進路希望先の情報を数多く生徒に提供するとともに、キャリア教育を充実させ、進路実現を目指したい。
健康安全	個々の健康課題を取り上げ、改善への方法を考える機会を設け実践させていく。
人権教育	社会に出る準備として、自分自身を守る方法を身につけさせる。
図書教育	計画的に選書や図書購入を行い、幅広い図書に触れる機会を設ける。
特別活動	学校行事を中心にして、コミュニケーションの苦手な生徒も気軽に自己表現できる環境作りをしていく。
情報発信	次年度末の閉校に向けた情報発信のあり方について検討し、積極的に実施していきたい。
業務改善	閉校を迎えるにあたって、教職員及び生徒が最小人数となる中で、徳山北分校と連携を取り、閉校した学校関係者からの情報を上手に活用し、学習保障と業務負担のバランスを念頭に協議を重ねて学校運営をスムーズに進めていく。